



特 249
304

日 十三年六月編輯

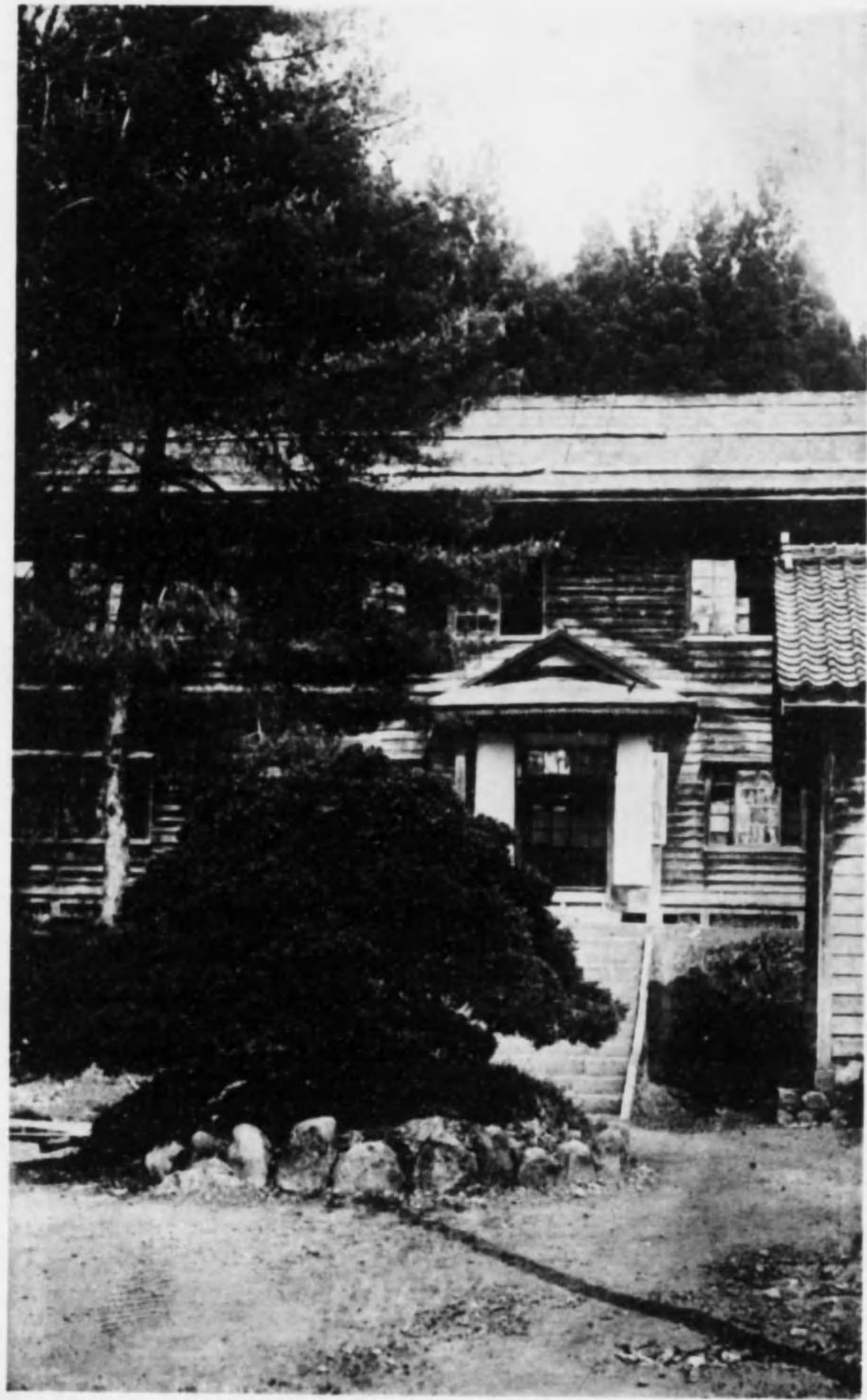
新潟縣染織講習所要覽 (納本)

始

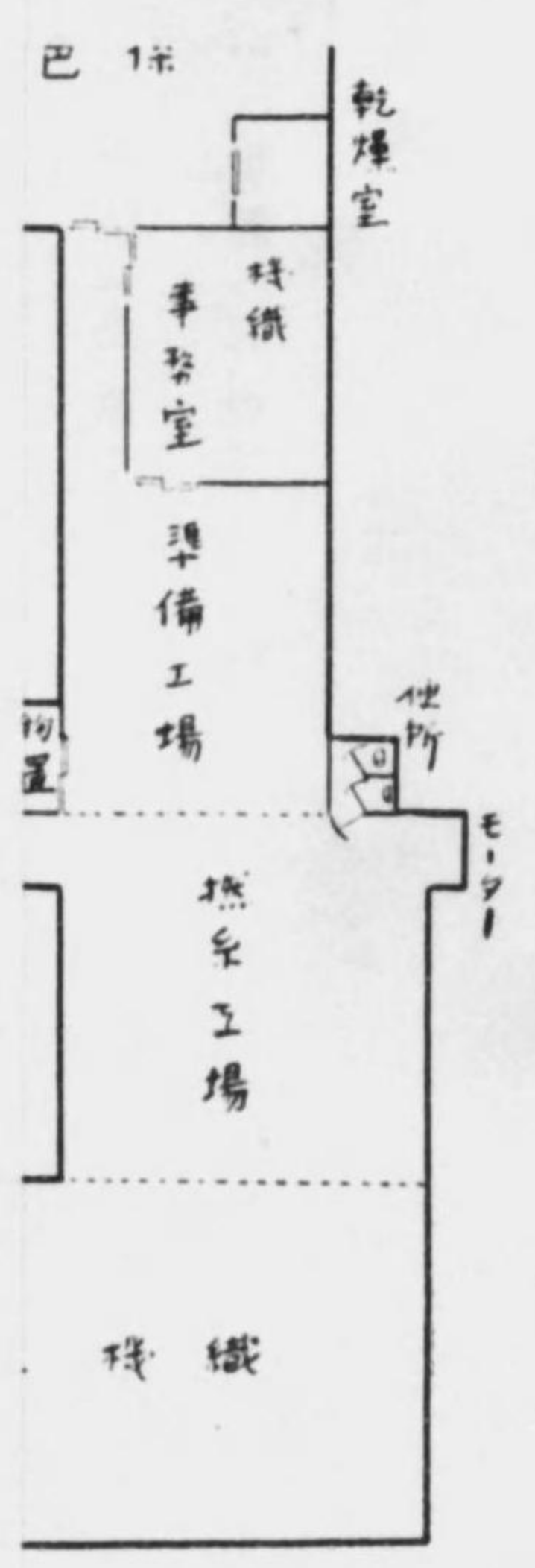


3
3

特249
304



新鴻縣染織講習所木館正面





目次

新鴻縣染織講習所本館正面圖(銅版)

新鴻縣染織講習所平面圖(凸版)

第一章	沿革	一頁
第二章	敷地及建物	一頁
第三章	組織及事業	一頁
第四章	主要設備	一頁
第五章	諸規定	一三頁
第六章	經費及豫算	二九頁
第七章	職員及囑託員	三〇頁





目次

目次



第一章 沿革

本所ハ大正三年四月一日創立ニ係ルモノナレドモ、ソノ前身ハ遠ク明治三十三年郡立染織學校ノ設立ニ端ヲ發シ、爾來幾多ノ變遷ヲ經タルモノニシテ、其ノ概要ヲ舉グレバ左ノ如シ。

一、設置迄ノ經過

抑モ十日町地方ニ於ケル織物ノ濫觴ハ其ノ起因ガ非常ニ古ク詳シイ事ハ不明デアルガ、當地方ニ於ケル特産物ノ上布縮ガ其基源ヲ漸次各種織物ノ發達ヲ促シ、稍々其ノ聲價ヲ市場ニ認メラル、ト共ニ、夏織物産地トシテ工業化セラレテ來タノデアアル。

併シテ工場諸設備ノ擴張ノ機運ト共ニ之ガ従業員ヲ養成シ技能ノ練磨製品ノ向上ヲ期スル爲、子弟養成機關ノ必要ガ叫バレ、遂ヒニ萬難ヲ排シテ明治三十三年九月三日郡立中魚沼郡染織學校ノ設立ヲ見ルニ至ツタモノデアアル。

其ノ後之ヲ縣立ニ移セシガ、四十三年三月ニ至リ新潟縣立工業學校整理ノ結果長岡工業學校設立ト同時ニ村松工業學校ト共ニ廢校ノ悲運ニ遭ヒ、同年四月ヨリ十日町織物同業組合染織講習所ヲ設ケ、講習生ヲ募集シテ一ケ年間ノ講習ヲナス、同年十一月郡會ハ染織學校ノ復興ヲ決議シ、再ビ認可ヲ得テ翌四十四年四月郡立十日町實業學校ヲ設立シ染織農業ノ二科ヲ併置ス。

郡立十日町實業學校ハ大正三年迄續イタノデアアルガ、漸ク織物産地トシテ發展セル十日町トシテ、純然タル學校ヨリモ、染織従業員ヲ養成スルト同時ニ、業者ニ對シ染織技術ヲ指導スル機關ノヨリ必要ナル事ヲ痛感シ、全年三月實業學

校ヲ廢校スルト共ニ縣立染織講習所ヲ設立サル、ニ至ツタモノデアル。

イマ郡立染織學校ヨリ本所設立ニ至ル迄ノ經過ヲ列記スレバ次ノ如クデアル。

- 一、明治三十三年九月三日郡立中魚沼郡染織學校設立認可サル。
- 一、明治三十四年四月五日授業ヲ開始ス。
- 一、明治四十年四月一日縣立十日町染織學校ト改稱ス。
- 一、明治四十三年三月三十一日廢校トナル。
- 一、明治四十四年三月三十一日廢校トナル。
- 一、明治四十四年四月一日中魚沼郡立實業學校トナル。
- 一、大正三年三月三十一日廢校トナル。
- 一、大正三年四月一日新潟縣立染織講習所トナル。

二、新潟縣染織講習所設立ヨリ今日迄

本所ハ大正三年染織業ニ必須ナル學理及技術ヲ講習生ニ講習シ、當業者ノ指導・依頼試験・依頼加工・其他染織業ノ發展ニ資スベキ事業ヲ行フ目的ヲ以テ設立サレタモノデアル。

- 一、大正三年三月廿八日新潟縣令第二十三號ヲ以テ新潟縣染織講習所規則制定セラル。
- 一、大正三年四月一日新潟縣染織講習所ヲ設立ス。
- 一、大正三年四月卅日澁谷廣次所長就任ス。

一、大正三年五月十五日授業開始ス。

- 一、大正四年度色染部職員室増築。
- 一、大正五年三月三十一日所長澁谷廣次新潟縣工業技師ニ轉任。
- 一、大正五年三月三十一日結城市之助所長就任。
- 一、大正七年二月二十日所長結城市之助依願退官。
- 一、大正七年四月一日兒玉親徳所長就任。

手織實習工場・紋織工場・作業部工場・機織部・事務室・整理工場・小使室・生徒昇降口・機織部生徒用便所増築ス。

- 一、大正九年度力織機工場・色染工場・乾燥室増築ス。
- 一、大正十年度生徒控室増築。
- 一、大正十一年度九月所長兒玉親徳新潟縣試驗場長ニ轉任ト同時ニ山本二郎所長事務取扱ヲ命ゼラル。
- 一、大正十二年五月八日山本二郎所長ニ任ゼラル。
- 一、昭和二年度十日町役場・十日町織物同業組合寄附ニヨリ捺染作業工場新設ス。
- 一、昭和七年二月廿五日山本二郎所長依願退官。
- 一、昭和七年四月一日遠藤權三郎所長就任。
- 一、同年度十日町役場・十日町織物同業組合寄附ニヨリ捺染工場新築。
- 一、昭和八年度二月遠藤所長新潟縣染織試驗場長ニ轉任ス。

- 一、昭和八年二月十日角田採米所長着任。
- 一、昭和八年五月十日町織物同業組合寄附ニ係ル精練所ノ新設ニ伴フ工場模様替工事完成。
- 一、昭和八年七月新汽罐設置ノ爲新舊入替工事、新潟市中野組工事シ全九月完成ス。
- 一、昭和八年十月十五日創立二十周年祝賀會開催、特ニ本省貿易局ヨリ外國製染織見本ヲ借用シ一般觀衆ニ展覽ス。
- 一、昭和十年六月十日町織物同業組合ヨリ作業部ニ津田式大巾織機二臺寄附。
- 一、昭和十年七月力織機工場北側ノ乾燥室ヲ仕上工場ニ移轉ス。
- 一、昭和十年八月作業部ニ於テ津田式大巾織機二臺購入、全十月ヨリ廣巾織物ノ作業開始、コノ種地方業者ノ指導啓發ニ資セリ。
- 一、昭和十一年六月八日ヨリ七月十六日迄夜間講習開催、地方一般徒弟ノ素質向上ヲ圖ル、受講者一〇八名中七三名ニ終了証書授與。
- 一、昭和十一年九月二十一日ヨリ同三十一日迄中條村大井田小學校ニ於テ夜間講習ヲ行フ。
- 一、昭和十一年十月酒川木橋架替工事施行。
- 一、昭和十二年一月「シルケツト機一臺」龜田織物同業組合ニ無償交付ノコト縣參事會デ議決サル。
- 一、昭和十二年六月二十一日ヨリ七月二十四日迄夜間講習會開催、受講者一〇九名中七六名ニ對シ修了証書授與。
- 一、昭和十二年七月五百川式小巾力織機一臺購入、西陣七百口ジャカードヲ取付ケ主トシテ紋織物試驗ヲ行フ。
- 一、昭和十二年十二月化學天秤一臺購入。

第二章 敷地及建物

一、位 置

新潟縣中魚沼郡十日町辰甲

八一六ノ子	八一六ノ丑	合併番地
八一七ノ子	八一七ノ丑	
八一七ノ子	八一七ノ丑	

二、敷 地

- 一、敷 地 九百九十三坪
- 二、山 林 一反四畝二十四步

三、建 物

本館ハ明治三十四年十日町染織學校々舍タリシモノガ、組合立染織講習所實業學校ニ移管サレ更ニ大正三年本所設立ト共ニ講習所ニ移管サレタモノデアルガ、工場・寄宿舍等ハ講習所トナツテカラ新設サレタモノデアル。

總 建 坪	五百三十六坪五合
本 館	木造亞鉛葺二階建 八十四坪五合
内 容	理化教室 一〇、五〇〇

應接室及標本室 一二、〇〇
 所長室 六、〇〇
 當直室 三、〇〇
 受付室 三、〇〇
 事務室 一〇、五〇
 理化實驗室 四、五〇
 職工更衣室 七、〇〇
 職員便所 二、五〇
 廊下 二、三、五〇

二階八十坪
 講堂 三二、〇〇
 圖案調製室 三、七五
 廊下 一八、二五
 圖案教室 二一、〇〇
 圖案附屬物置 五、〇〇

本館及染色工場間渡廊下 四坪
 本館及捺染工場間渡廊下 四坪

手織實習工場 木造亞鉛葺平家建 三十六坪

內工場 二八、〇〇
 廊下 七、〇〇
 便所 一、〇〇

納屋 木造亞鉛葺平家建 十二坪
 染色工場 木造瓦葺平家建 五十四坪

內工場 三六、〇〇
 乾燥室 二、〇〇
 事務室 九、〇〇
 廊下 七、〇〇

生徒控室 木造瓦葺平家建 二十三坪

內昇降口 三、〇〇
 控室 九、〇〇
 廊下 四、〇〇
 藥品室 六、〇〇
 押入 一、〇〇

精練仕上工場 木造瓦葺平家建 六十坪
 內工場 五四、〇〇
 乾燥室 六、〇〇

機織準備工場 木造瓦葺平家建 三十四坪五合
 內事務室 一〇、五〇
 廊下 三、五〇
 工場 一八、〇〇
 物置 一、五〇

擦糸工場 木造瓦葺平家建 二十九坪
 內工場 二七、五〇
 手工場 一、〇〇
 電動機室 五、五〇

力織機工場 木造瓦葺平家建 五十八坪
 內工場 五五、〇〇
 物置 三、〇〇

小使室 木造瓦葺平家建 六坪
 全廊下 木造亞鉛葺平家建 一坪七合五勺

汽罐室 木造亞鉛葺平家建 二十八坪
 全廊下 木造亞鉛葺平家建 一坪七合

捺染工場

木造鉛葺平家建

六十一坪

内工

五四、〇〇

準備室

五、〇〇

寄宿舎

木造亞鉛葺二階建 三十九坪五合

二階三十四坪

第三章 組織及事業

本所ハ縣下染織業者ノ子弟ヲ養成スル傍ラ地方斯業ノ指導機關トシテ大正三年設立サレタモノデアル。

一、講習生

本所講習生ノ入所資格ハ本科生ハ高等小學校二年以上若クハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル男子、特別科生ハ尋常科卒業以上若クハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル男子ニシテ一ケ年以上染織業ニ従事シタル者、又、專修科生ハ本科卒業生ニシテ特ニ或ル科目ニ付研究專攻セントスルモノナルコトヲ條件トス、其ノ講習期間ハ本科ハ色染・機織各一ケ年、特別科並ニ專修科ハ各六ヶ月以上ニシテ孰レモ短期講習ナルヲ以テ高遠ナル學說及理論等ハ之ヲ避ケ可成卒業又ハ修業後直チニ實務ニ就カシムルヤウ實利的養成ニ努メ而モ簡易ニシテ會得シ易キ基礎的知識技能ノ練磨習熟ヲ目的トシ之ニ圖案ヲ課シ更ニ隨意科トシテ英語・數學ヲ課シ以テ數理上ノ知識ト専門語ヲ習得ヲナシツ、アリ。

大正三年當所ニ開設以來本年三月卒業生ハ第二十四回ヲ算シ地元工場ハ勿論縣下樞要ノ産地ニハ概ネ卒業生ノ見ザル

トコロナク行キ且リ其ノ大多數ハ自營スルモノ及ビ大小工場ノ實務員トシテ業界ノ中堅トナリ居ルモノ多ク直接又ハ間接ニ地方機業ノ發達ニ有力ナル素因ヲ爲シタルモノト信ズ。

創立以來昭和十二年度迄ノ卒業生數

本科卒業生
別科及專修科修業生

六三一名
二九八名
九二九名

卒業生出身地別

郡市別	本科卒業生	別科及專修科修業生
中魚沼郡	五一五	二五一
北魚沼郡	二四	一九
南魚沼郡	一八	三
東頸城郡	一九	九
古志郡	一	二
長岡市	二	二
刈羽郡	九	一
南蒲原郡	一	五
佐波郡	一	一
三島郡	三	一

中蒲原郡	四	二	一	一	四
西蒲原郡	二	一	一	一	一
北蒲原郡	三	一	一	一	一
高田市	二	一	一	一	一
他縣	一	一	一	一	一
計	六	三	一	二	九

二、各部ノ事業

本講習所ハ講習生ヲ養成シテ居ルガ、又同時ニ外ニ向ツテハ地方染織業ノ改良發達ヲ圖ルタメ試験研究實地指導等ニ努力シテ居リ、現在庶務部・色染部・機織部・圖案部ノ四部ヨリナツテ居ル。併シテ

庶務部 一般庶務會計ニ従事ス。

色染部 ハ試験研究・依頼試験・其他實地指導等ニ努力スル一方作業部ニ於テハ捺染加工ヲ行ヒ當業者ノ注文ニ應ジ更ニ絹糸精練・染色モ同様引受ケテ居ル。

尙本年度ニハ精練設備完成シ、試験ト同時ニ一般ノ依頼作業ヲ引受ケツ、アリ。

機織部 ハ試験研究ニ依頼試験及實地指導ハ勿論ナレド、撚糸ハ試験ノ傍ラ依頼作業ヲ行ヒ成績ヲ擧ゲテ居ル。

圖案部 ハ毎年東京又ハ大阪地方ニ出張デパート其他ニ就キ流行意向ニヨリ圖案ヲ調製シテ配布又ハ講話ヲ行フ。

第四章 主要設備

各部機械設備ノ主ナルモノヲ擧グレバ次ノ如シ。

一、色染部

試料天秤	二	鐵製蒸釜	一
試験用ジツカー	一	テンター	一
フエデオメーター	一	脫水機	二
總糸染機	一	圓筒乾燥機	一
總糸艶出機	一	噴霧機	一
木製精練槽	二	フェルトカレンダー	一
カラパン	二	鹽潮式中出湯伸機	一
銅製染槽	六	鐵製二重釜	二
鐵製染槽	二	漂白槽	三
銅製精練槽	三	パームチツト濾水器	一
總糸シポリ機	一	木製精練槽	二
鐵製精練槽	三	水洗槽	一

試験用捺染機

二、機 織 部

顯微鏡	一	桐生式引揃機	一(一〇窓)
溫度計	一	揚返機	一(一〇掛)
檢燃器	三	伊太利式捺糸機	一(一九二錘)
セリブレーン	一	リーター意匠捺糸機	一(四〇錘)
糸強伸度試験器	一	服部式意匠捺糸機	一(一〇〇錘)
デニール計	一	濱野式捺糸機	四(三二〇錘)
整經機	二	宇野式管卷機	一
繰返機	三	豊田Y型小巾織機	二
引揃機	一	壽式小巾織機	一
管卷機	三	高柳式小巾織機	一
村田式小巾織機	一	壽式大巾織機	一
山本式小巾織機	一	ルーチー大巾織機	一
野上式大巾織機	一	津田式大巾織機	一
手織機	一五	ポール紙裁斷器	一
絞切機	二		

三、原動及汽罐室

電 動 機

三

揚水ウオシントンポンプ

二

汽罐(外焚多管式直徑四呎・長十二呎) 一

第五章 諸 規 定

一、本 所 規 則

(大正三年三月廿八日新潟縣令第二十三號)

第一章 總 則

- 第一條 本所ハ染織業ニ必須ナル學理及技術ヲ講習シ兼テ巡回講話試驗調査及見本品ノ配付其他染織業ノ發展ニ資スヘキ事業ヲ行フヲ以テ目的トス
- 第二條 本所ニ本科特別科ヲ置キ講習科目ヲ機織色染ノ二部ニ分ツ
縣下須要ノ地ニ於テ短期講習ヲ開ク事アルヘシ其規定ハ別ニ之ヲ定ム
- 第三條 講習期間ヲ定ムル事左ノ如シ
本科 一ケ年 特別科 一ケ年以内
- 第四條 本科卒業後更ニ研究ヲ望ム者ノ爲專修科ヲ置キ半ケ年乃至一ケ年在所ヲ許ス事アルヘシ
講習生ノ定員左ノ如シ

本科 參拾名 特別科 若干名

第五條 講習課程及教授時數左ノ如シ

本科 機械部		本科 色染部	
科目	每週教授時數	科目	每週教授時數
修身	一	修身	一
工業道德ノ要旨		工業道德ノ要旨	
物理	三	化學	三
物理學大意		化學大意	
圖案	六	分析	六
圖案應用・應用圖案		定性分析	
機械	三	色染	三
機械法・意匠法・整理		色染法・整理	
實習	二九	色染・整理	二九
機織整理			
計	四二	計	四二

特別科

機織法・整理・物理・化學・圖案ニ就キ一定期間ニ於テ地方ノ情況ニ應ジ其一科ヲ撰ミ日曜講習・夜間講習又ハ其他ノ方法ニ依リ之ヲ授ク

第三章 講習年度及休業日

第六條 講習年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第七條 講習年度ヲ分チテ左ノ二期トス

第一期 四月一日ニ始マリ九月三十日ニ終ル

第二期 十月一日ニ始マリ三月三十一日ニ終ル

第八條 休業日ヲ定ムルコト左ノ如シ

一、大祭 祝日 二、日 曜 日

三、開所 紀念日 四、郷 社 祭 日

五、夏期休業八月十三日ヨリ全二十六日迄

六、冬期休業十二月二十五日ヨリ翌年一月七日迄

第四章 入所及退所

第九條 生徒募集ハ毎講習年度ノ始ニ於テシ其ノ期日並募集人員ハ其都度之ヲ告示ス但時宜ニ依リ臨時入所ヲ許スコトアルヘシ

第十條 本所生徒タルコトヲ得ル者ハ左ノ資格アルヲ要ス

- 一、身體健全ニシテ品行方正ナル者
- 一、修業中他業ニ係累ナキ者

一、本科ハ滿十四年以上ノ男子ニシテ高等小學校卒業若クハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者

一、特別科ハ尋常小學校卒業以上ノ學力ヲ有シ一ケ年以上染織業ニ従事シタル者

第十一條 入所ヲ出願セントスルトキハ(願書第一號書式)ニ入所セシムヘキ者ノ履歷書ヲ添ヘ親權者又ハ後見人(親權者ナキトキハ保証人)ヨリ所長ニ差出スヘシ

入所出願者ハ納稅義務ヲ有シ獨立ノ生計ヲ營ム成年者ニシテ所長ノ指示ニ從ヒ一切ノ責ニ任シ得ヘキ者ヲ保証人トシ願書ニ連署スヘシ但シ所長ニ於テ不適當ト認メタルトキハ保証人ヲ變更セシムルコトアルヘシ

保証人死亡其他ノ事故ニ依リ其ノ資格ノ要件ヲ失ヒタルトキハ直ニ保証人ヲ定メ第二號書式ノ保証人變更
届ヲ差出スヘシ

第十二條 疾病又ハ已ムヲ得サル事故ニ依リ退所セントスル者ハ親權者又ハ後見人(親權者ナキトキハ保証人)連署ノ
上所長ニ願出ツヘシ

第十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ退所ヲ命スルコトアルヘシ

- 一、品行不良ニシテ改心ノ見込ナシト認ムル者
- 一、成業ノ見込ナシト認ムルモノ
- 一、正當ノ事由ナク一箇月以上缺席シタル者

第五章 試業

第十四條 試業ヲ分チテ臨時試業・卒業試業ノ二種トス

第十五條 臨時試業ハ臨時ニ之ヲ行ヒ卒業試業ハ全科修了ノ後之ヲ行フモノトス

第十六條 卒業試業ニ合格シタル者ニハ第三號書式ノ証書ヲ授與ス

第十七條 専修科又ハ特別科ヲ修了シタル者ニシテ相當ノ技術ヲ修得セリト認ムル者ニハ第四號書式ノ証書ヲ授與ス

第六章 賞罰

第十八條 生徒中操行善良且學術優等ニシテ他生ノ模範タル者ニハ褒賞ヲ與フルコトアルヘシ

第十九條 所長ハ必要ト認メタルトキハ生徒ニ左ノ懲戒ヲ加フ

- 一、戒飭
- 一、謹慎
- 一、停學

第二十條 本所ノ建物・機械・器具等ヲ毀損又ハ亡失シタル者ニハ現品若クハ損害ノ金額ヲ賠償セシムルコトアルヘシ

第七章 雜則

第二十一條 當業者ニシテ斯業ニ關スル試験又ハ鑑定ヲ依頼セントスルトキハ其ノ事項ヲ詳記シ供試品ヲ添へ本所ニ申
出ツルコトヲ得

第二十二條 試験又ハ講話ノ爲特ニ所員ノ出張ヲ請ハントスル者ハ場所及日數等必要ナル事項ヲ具シ所長ニ願出ツヘシ
前項ノ場合ニ於ケル費用ハ出願者ニ自辨セシムルニアルヘシ

第二十三條 本所ニ於テ染織ニ關スル試験又ハ調査ヲ爲シタル結果ハ隨時當業者ニ公示スルコトアルヘシ

第二十四條 本所ハ染織品及圖案其他當業者ノ參考ニ資スヘキモノアルトキハ見本トシテ之ヲ配付スルコトアルヘシ

附則

第二十五條 所長ハ知事ノ認可ヲ得テ本則施行上必要ナル細則ヲ定ムルコトヲ得

第二十六條 本則ハ大正三年四月一日ヨリ施行ス

二、染織講習所處務規程

第一章 總則

第一條 所長ハ所務ヲ統理シ所屬職員ノ進退賞罰ニ關スル事項ニ付意見ヲ知事ニ内申スルコトヲ得

第二條 所長ハ自己及ヒ所屬職員ノ管外出張ニ關シテハ知事ノ認可ヲ得タル後發令スヘシ
前項ニ依リ出張ヲ命シタルモノ、復命書ハ歸所後十日以内ニ知事ニ提出スヘシ

第三條 毎年度事業ハ其ノ實行計劃ヲ樹テ年度開始一ヶ月前ニ知事ニ報告スヘシ

第四條 毎年度ノ業務功程報告書ハ翌年度六月十日迄ニ知事ニ提出スヘシ

第五條 翌年度豫算要求書二通ヲ作り六月末日迄ニ知事ニ提出スヘシ

第六條 左ノ事項ハ所長ニ於テ專決處分スルコトヲ得但シ第二號中任地ヲ離レ縣外ニ旅行スルトキ第四號・第五號・第六號ノ事項ハ處分後直チニ知事ニ報告シ所長ハ第二號中任地ヲ離レ管外ヘ旅行スルトキハ知事ニ届出スヘシ

一、職員ノ事務分掌ニ關スルコト

二、職員ノ缺勤忌引任地ヲ離レントスル場合ニ於ケル願書並ニ除服ニ關スルコト

三、職員ノ管内出張ニ關スルコト

四、處務規程ノ制定改廢ニ關スルコト

五、別ニ規定アルモノ、外生産物製造及ビ所得物ノ處分ニ關スルコト

六、雜給ヲ以テ支辨スヘキモノ、採用罷免ニ關スルコト

七、器具機械ノ貸付ニ關スルコト

八、講習生ノ募集及ヒ入退所ニ關スルコト

九、講習生ノ懲戒處分ニ關スルコト

一〇、卒業證書・修業證書ノ授與ニ關スルコト

一一、緊急ノ必要ニ依リ臨時休業ヲナスコト

一二、其ノ他以上各號ニ準スヘキ輕易ナル事項

第七條 本所ノ作業時間左ノ如シ

自四月二十一日 日午前七時ヨリ午後五時迄、但シ土曜日ハ午後三時迄トス
自七月二十一日 日午前七時ヨリ午後四時迄、但シ此期間土曜日ハ正午迄トス
自八月三十一日 日午前七時ヨリ午後五時迄、但シ土曜日ハ午後三時迄トス
自九月三十一日 日午前八時ヨリ午後四時三十分迄、但シ土曜日ハ午後三時迄トス
自十一月三十一日 日午前八時ヨリ午後四時三十分迄、但シ土曜日ハ午後三時迄トス
自翌年三月三十一日 日午前八時ヨリ午後四時三十分迄、但シ土曜日ハ午後三時迄トス
講習生ノ就業時間ハ四月一日ヨリ十月三十一日迄午前八時ヨリ午後四時迄、十一月一日ヨリ翌年三月三十一日迄午前八時三十分ヨリ午後四時迄但シ土曜日ハ正午迄トス

第二章 事務分掌

第九條 本所ニ左ノ部ヲ置キ各主管工場及建物ヲ監理セシム

- 一、庶務部
 - 一、色染部
 - 一、機織部
 - 一、圖案部
 - 一、教務部
- 主管工場及建物左ノ如シ
- 庶務部
- 本館・機關室・寄宿舍・小使室・物置・其他ノ營造物等

色 染 部

色染工場・整理工場・竝ニ精練工場・捺染工場

機 織 部

力織機工場・手織工場・撚糸工場

圖 案 部

圖 案 室

教 務 部

各 教 室

各部ニ部長ヲ置キ其ノ主管事務分掌左ノ如シ
庶務部

- 一、所印監守ニ關スル事項
- 二、儀式ニ關スル事項
- 三、職員ノ身分進退及ヒ服務ニ關スル事項
- 四、職員・雇傭員ノ願届ニ關スル事項
- 五、雇員・機工・機關手・小使・炊婦ノ進退及服務勤怠ニ關スル事項
- 六、講習生ノ募集入退所學籍簿其他事務ニ關スル事項
- 七、文書・帳簿及ヒ物品ノ收受發送ニ關スル事項
- 八、物品ノ購入出納保管及ヒ處分ニ關スル事項

第十條

九、文書ノ編纂保存ニ關スル事項

一〇、土地建物及ヒ營繕ニ關スル事項

一一、金錢ノ出納ニ關スル事項

一二、作業資金ニ關スル事項

一三、統計竝ニ報告ニ關スル事項

一四、經費豫算竝ニ決算ニ關スル事項

一五、製品竝ニ不用品拂下ケニ關スル事項

一六、衛生及ヒ警備ニ關スル事項

一七、所内(作時中ノ工場及ヒ授業中ノ教室ヲ除ク)取締並ニ當直ニ關スル事項

一八、機關室ノ事務ニ關スル事項

一九、機關手・火夫・小使・炊婦・其他傭人ノ取締ニ關スル事項

二〇、日誌ニ關スル事項

二一、寄宿舎ニ關スル事項

二二、其他、他ノ主管ニ屬セサル事項

色 染 部

一、講習生ノ教授及ヒ實習ニ關スル事項

二、汽罐・汽機ノ使用上ニ於ケル機關手・火夫ノ指揮監督ニ關スル事項

三、電力並ニ機械器具使用ニ關スル事項

- 四、色染・整理精練分析ニ關スル事項
 - 五、試験鑑定調査ニ關スル事項
 - 六、講習講話及ヒ實地指導ニ關スル事項
 - 七、見本品配布ニ關スル事項
 - 八、依頼製作品及ヒ加工ニ關スル事項
 - 九、質疑應答ニ關スル事項
 - 一〇、主管工場ノ備品ノ保管ニ關スル事項
 - 一一、主管工場ニ於ケル物品ノ購入並ニ出納ニ關スル事項
 - 一二、主管工場内ノ取締並ニ就業員ノ指揮監督ニ關スル事項
 - 一三、主管部ニ屬スル豫算下調並ニ統計報告ニ關スル事項
 - 一四、他部ノ主管ニ屬セザル事項
- 機 織 部
- 一、講習生ノ教授及ヒ實習ニ關スル事項
 - 二、電力並ニ器具機械ノ使用上ニ於ケル指揮ニ關スル事項
 - 三、機織並ニ捻糸ニ關スル事項
 - 四、試験鑑定調査ニ關スル事項
 - 五、講習講話及ヒ實地指導ニ關スル事項
 - 六、見本品配布ニ關スル事項

- 七、依頼製作品及ヒ加工ニ關スル事項
 - 八、質疑應答ニ關スル事項
 - 九、主管工場ニ於ケル物品ノ購入並ニ出納ニ關スル事項
 - 一〇、主管工場ノ備品保管ニ關スル事項
 - 一一、主管工場ノ取締り並ニ就業員ノ指揮監督ニ關スル事項
 - 一二、主管部ニ屬スル豫算下調・統計・報告ニ關スル事項
 - 一三、他部ノ主管ニ屬セザル事項
- 圖 案 部
- 一、講習生ノ教授及ヒ實習ニ關スル事項
 - 二、依頼圖案ノ調製調査並ニ配布ニ關スル事項
 - 三、質疑應答ニ關スル事項
 - 四、主管ニ關スル物品ノ購入並ニ出納ニ關スル事項
 - 五、主管ニ屬スル備品ノ保管ニ關スル事項
 - 六、主管ニ屬スル豫算下調・統計並ニ報告ニ關スル事項
 - 七、他部ノ主管ニ屬セザル事項

第三十條 第三十條 事務代理
 所長事故アルトキハ上席職員事務ヲ代理ス
 特ニ命令アリタル時ハ此限ニアラス

第十二條 部長事故アルトキハ上席部員其事務ヲ代理ス

第四章 處務順序

第一節 文書收受

第十三條 到達セル文書(電報ヲ含ム)ハ庶務部ニ於テ開封シ文書收發件名簿ニ登記シ所長ノ閱覽ヲ經テ主務部長ニ配付スヘシ

親展文書ハ封緘ノ儘收受シ受信者ニ配付スヘシ

寄附圖書ハ簿冊ニ登録シ主務部ニ保管スヘシ

訓令・通牒・通達等ニシテ例規トナルモノハ例規令達綴ニ編綴保存スヘシ

第十四條 收受シタル文書ニシテ職員ニ周知セシメントスルモノハ回覽ニ供スヘシ

第二節 文書處理

第十五條 部長文書ノ配付ヲ受ケタルトキハ直チニ處理スヘシ其ノ處理期限左ノ如シ

一、折返シ文書ハ即時

二、至急ヲ要スルモノハ即日

三、期限ヲ附セサルモノハ三日以内

前三項ノ文書ニシテ若シ三日以内ニ處理シ難シト認ムル場合ハ豫メ期限ヲ定メ所長ノ承認ヲ受クヘシ

四、期限附文書ハ其期限以内

第十六條 文書中處分ヲ要セス閱覽ニ止マルモノハ直チニ該文書ノ餘白ニ供覽ト記入シ處理スヘシ

第十七條 文書ヲ發送セントスルトキハ回議案ヲ用紙ニ認メ其ノ事項ニシテ他ノ部ニ關係アルモノハ其ノ同意ヲ得テ

所長ノ決裁ヲ經テ施行スヘシ

定例アルモノ若クハ輕易ナルモノハ文書ノ餘白ニ朱書立案シ又ハ符箋等ヲ以テスルコトヲ得

回議案ニシテ秘密其他特ニ注意ヲ要スルモノハ其趣旨ヲ附記シ至急ヲ要スルモノハ赤紙ヲ貼付スヘシ

第十八條 一事件ニ關スル書類ノ往復等ハ同一記號ヲ用ヒ月日ノ順序ニ從ヒ逐次下ヨリ上ニ編綴スヘシ

第十九條 代決シタル事件ニシテ重要ナルモノハ所長ノ後閱ヲ經ヘシ

第二十條 各部ニ於ケル文書ニシテ不用ノモノハ年度經過後庶務部ニ引繼クヘシ

第二十一條 決裁済ノ文書ニシテ發送ヲ要スルモノハ庶務部ニ回付スヘシ

第二十二條 庶務部ニ於テ發送文書ノ回付ヲ受ケタルトキハ所定ノ郵便電信發送簿ニ登記シ所在地ニ屬スルモノハ文書發送簿ニ記入シ發送スヘシ

發送簿ニ記入シ發送スヘシ

第二十三條 發送ヲ要スル物品ハ小包通達等ヲ明カニシ送達先數量ヲ標記シ庶務部ニ回付スヘシ

第二十四條 庶務部ニ於テ發送品ノ回付ヲ受ケタルトキハ所定ノ帳簿ニ記入シ發送スヘシ

第二十五條 所ニ左ノ帳簿ヲ備ヘ整理スヘシ

一、收發件名簿

一、文書發送簿

一、郵便電信發送簿

一、脚夫通達差立簿

第五章 服 務

第二十六條 出勤シタルトキハ自ら出勤簿ニ捺印スヘシ

第二十七條 公務ノ都合ニ依リ執務時間外又ハ休日ト雖モ出勤スルコトアルヘシ

第二十八條 所長ノ命令アリタル場合ハ勿論事業ノ繁閑ニ依リ擔任外ト雖モ相互業務ニ援助スヘシ

第二十九條 事故又ハ病氣ノ爲メ執務時間中退所セントスルモノハ上司ノ承認ヲ受クヘシ、一時外出ノ場合亦タ同シ

第三十條 遅参出勤ノ場合ハ其ノ事由ヲ届出ツヘシ

第三十一條 休日又ハ執務時間外ニ於テ登所シタル場合ハ其旨當直員ニ告知スヘシ其退出ノ場合亦同シ

第三十二條 出勤セントスルトキハ授業開始前迄ニ其事由ヲ届出ツヘシ

第三十三條 病氣出勤七日ヲ超ユルトキハ醫師ノ診断書ヲ添へ届出テ爾後二十日毎ニ同様ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十四條 休暇ヲ得ントスルトキハ其日數ヲ記シ其前日迄ニ願出スヘシ但シ七月二十一日ヨリ八月三十一日迄ノ間ニ

於テ願出ツヘシ此ノ場合ニ於テハ事務ニ差支ナキ様互ニ申合セテナスヘシ

第三十五條 病氣又ハ重要事故ノ爲メ休暇ヲ得ントスルトキハ其ノ事由ヲ具シ願出スヘシ此場合ハ事實止ムヲ得サルモ

ノニ限り休暇ヲ許可スルコトアルヘシ

第三十六條 忌服ニ中リタルトキ又ハ父母ノ祭日ニ當リ休暇セントスルトキハ其旨願出スヘシ

第三十七條 墓參歸郷・父母ノ病氣看護・轉地療養又ハ賜暇旅行セントスルトキハ其ノ期間行先ヲ明記シ許可ヲ受クヘシ但シ轉地療養ノ場合ハ醫師ノ診断書ヲ添付スヘシ

第三十八條 召集簡閱點呼及ヒ徵兵検査ニ應シ又ハ證人鑑定人トシテ裁判所ニ出所スル場合等ニハ其旨届出ツヘシ

第三十九條 出張ノ命令ヲ受ケタルトキハ出發前及ヒ歸着後命令簿ニ發着年月日ヲ記シ捺印スヘシ

第四十條 出張中用務ノ都合ニ依リ豫定ノ期限内歸所スルコト能ハサルトキハ事由ヲ具シ承認ヲ受クヘシ

第四十一條 病氣其他ノ事故ニ依リ用務ヲ行フコト能ハサルトキ亦同シ

第四十二條 出張中處理スヘキ事件ニ付重要ノ事件起リタルトキハ即時開申シ指揮ヲ待ツヘシ

第四十三條 縣内出張ヲ命セラレタル場合歸所後直チニ復命書ヲ提出スヘシ但シ輕易ナル事件ニ就テハ口頭ヲ以テナス

コトヲ得

第四十四條 出勤・休暇・出張等ノ場合ハ擔任事務ノ未決ニ屬スルモノアルトキハ上司ニ申報シ置クヘシ

第四十五條 轉任・免官又ハ休職ヲ命セラレタルトキハ其取扱中ノ事務引繼書ヲ作り三日以内ニ上司ニ引繼クヘシ

第四十六條 新任者ハ住所決定ノ上直チニ届出ツヘシ

第四十七條 新任者ハ三日以内ニ履歷書ヲ庶務部ニ差出スヘシ爾後氏名族籍其他身分ニ異動ヲ生シタルトキハ直チニ届

出ツヘシ

第四十八條 職員ヨリ知事ニ差出スヘキ願届・伺書等ハ所屬所長ヲ經由スヘシ

第四十九條 總テ文書ハ上司ノ承認ヲ經ルニ非ラサレハ濫ニ之レヲ他ニ示シ又ハ其内容ヲ告ケ若クハ其謄本ヲ與フルコ

トヲ得ス、文書ヲ所外ニ携行セントスルトキ亦タ同シ

第五十條 所屬所長ノ承認ヲ經ルニ非ラサレハ新聞・雜誌等ニ投稿ヲ爲スコトヲ得ス

第五十一條 事業ノ中止ヲ爲シ又ハ時間外事業ヲ爲スノ必要アリト認メタルトキハ部長又ハ主任者ハ其事由ヲ具シ所長

ノ許可ヲ受クヘシ但シ時間外勤務ヲ要スル場合ハ其時間及人名ヲ所長ノ決裁ヲ經テ庶務部ニ回付スヘシ

第五十二條 所内若シクハ其附近ニ火災其他異狀アリタルトキハ直チニ登所スヘシ

第五十三條 判任待遇者・助手・雇員ハ輪番ヲ以テ一名宛當直スヘシ

第五十四條 當直順番ハ庶務部ニ於テ之レヲ定メ當直ノ前日迄ニ當直員ニ通知スヘシ

第五十五條 公務ノ爲メ出張シタルモノ陸海軍ニ召集セラレタルモノ及ヒ忌引又ハ父母ノ祭日ニ當ル者ハ其期間當直ヲ

免除ス

第五十三條 當直通知後勤務シ難キ事故生シタルトキハ相互申合セテ以テ代直セシムルコトヲ得、此場合ハ豫メ届出ツ

ヘシ

第五十四條 當直ハ通常日ハ退所時限ヨリ翌日出勤時限迄トス

但シ休日ノ日直ハ出勤時限ヨリ午後四時迄、宿直ハ午後四時ヨリ翌日出勤時限迄ニ區別シ交替セシム

第五十五條 通常當直ト休日當直ト連續スルトキハ通常當直ヲ繰下ルモノトス

第五十六條 出張ノ前日又ハ賜暇等ノ爲メ當直ヲ爲シ難キ者ハ其間當直ヲ猶豫シ登所ノ上一回償直セシム

第五十七條 新任者ハ着任後一週間ヲ經テ當直セシム

第五十八條 當直員ハ必要ナル簿冊及ヒ物品ヲ領置シ之レヲ整理守管ニ任スヘシ

第五十九條 當直員ハ時々所内ヲ巡視シ火氣及ヒ戸締リヲ検査スヘシ

烈風ノ際ハ引込線ノ漏電發火汽罐ニ危險ノ虞ナキヤヲ検査スヘシ

第六十條 當直中到達シタル文書又ハ物品ハ左ノ通り取扱フヘシ

一、親展書・普通文書・小包郵便物其他ノ物ハ日誌ニ記載シ其儘之レヲ領置シ交替員又ハ庶務部ニ引繼ク

ヘシ

二、親展ニアラサル至急文書ハ開封シ調査ヲ要スルモノハ直チニ關係各部長ニ送付スヘシ

三、電報又ハ至急親展書ハ送達簿ニ記載シテ宛名ノモノニ送付スヘシ

第六十一條 當直中事態重大ナリト認ムル至急ノ事件ニ接シタルトキハ直チニ所長又ハ庶務部長ニ通報スヘシ出火其他

異常ナル事變ノ際ハ所長及ヒ最寄職員ニ急報スルノ外必要ナル取締ヲ爲シ臨機ノ處置ヲ爲スヘシ

第六十二條 當直員ハ當直中ニ於ケル諸般ノ事項ヲ當直日誌ニ記載シ署名捺印スベシ

第六章 附 則

第六十三條 本則ニ規定ナキ事項ニ就テハ總テ縣訓令ニ準據シ處理スヘシ

第六章 經費及豫算

豫 算 (歳出經常部)

項 目	昭和八年度	昭和九年度	昭和十年度	昭和十一年度	昭和十二年度
染織講習所費	二〇、五五〇	一九、一二二	一九、二二九	一九、二二四	二〇、一八〇
俸 給	七、五三二	七、四〇九	七、九三四	七、九三四	七、九三四
雜 給	五、一三四	五、〇三二	五、〇二五	五、〇二五	五、〇六一
所 費	七、四三五	六、二九三	五、八七三	五、八六八	六、七八八
賞 與	一九九	一八八	一九七	一九七	一九七
修 繕 費	二五〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇

第七章 職員及囑託員

受持學科	分掌事務	官職名	氏名
修身・織物試驗法	庶務會計主任	地方商工技師	角田 探
圖案法・同實習・數學	圖案部主任	商工技手	(目下缺員) 安藤 俊
組織分解・織物原料	兼教務部主任	商工技手兼主事補	小川 剛
力織機・物理・機械工學	機織部主任	商工技手	森本 榮
英語・數學	機織部員	商工技手	野口 秀
化學・色染法・英語	色染部主任	全	片桐 周
精練・仕上	色染部員兼舍監	全	根津 要
色染・實習	色染部員	助	石坂 正
機織・實習	機織部員	全	矢口 幸
全	全	囑託	登坂 綠
男	四名	女	一〇名
機關手	一名	小	一名
全	一名	炊	一名

昭和十三年七月十三日印刷
昭和十三年七月十七日發行

新瀉縣中魚沼郡十日町
發行所 新瀉縣染織講習所
新瀉縣長岡市表町三丁目
印刷人 岩 瀬 直 藏
新瀉縣長岡市坂ノ上町二丁目
印刷所 北越新報社

終

本誌ノ寸法ハ、商工省工業品規格統
一調査會決定ノ「紙ノ仕上寸法規格」
A列5番(148mm×210mm)ニ據ル。

